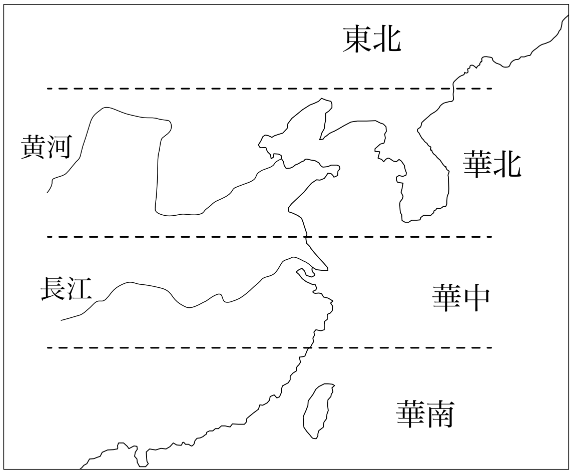
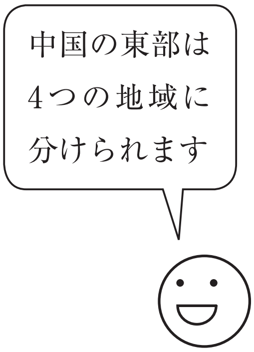
第1講
東アジア・東南アジア

［1］ ソウルは韓国の首都であり，国内総人口の5分の1近くが集中する巨大都市。郊外のインチョンは外港都市として発展し，現在は東アジア航空交通の中心となるハブ空港を有する。プサンは朝鮮半島南岸に位置する国内最大の港湾都市。古い時代から日本とのつながりが強く，現在も九州などと船舶で結ばれている。ポハンは日本海に面する鉄鋼都市。近隣のウルサンでは自動車工業など。

［2］ 中国を地域ごとに捉える。

・東北地方・・・東北平原を中心とする。夏季は比較的高温となり，大豆の生産が盛んだが，冬季はシベリア高気圧の影響により極めて低温で少雨となる。
・華北・・・黄河流域。やや乾燥し，黄河もしばしば水が枯れる(断流)。黄河中流域の黄土高原から砂が巻き上げられ，風によって日本へも運ばれるが(黄砂)，植林運動によって森林の回復もみられる。冬小麦や雑穀の栽培。
・華中・・・長江流域。降水量が豊富で(年降水量1000mm以上)沖積平野では米作が盛ん。中流部のスーチョワン盆地は米と冬小麦の二毛作。
・華南・・・亜熱帯性の気候で，台風の影響でとくに夏季に多雨。丘陵地では茶の栽培もされるが，水田に適した土地は少なく，二期作が行われる。
・北西部(シンチヤンウイグル自治区)・・・テンシャン山脈など険しい山々に囲まれた盆地には砂漠が広がる。
・南西部(チベット自治区)・・・標高4000mに達する冷涼少雨の高原。ヤクの遊牧が行われている。





［３］ 中国の省で重要であるのは２つ。スーチョワン省は長江中流部に広がる盆地を中心とする。米と小麦の二毛作が行われる豊かな農業地域で，地域人口（＊）は１億人に達する。ただし，経済レベル（１人当たり省内総生産）は低く，高賃金の雇用を求め沿海部への出稼ぎが生じている（民工潮）。なお，1997年にスーチョワン省からチョンチン市が中央直轄市として分離している。

さらにコワントン省。フーチエン省などとともに華南地域を構成しているが，山がちな地形で耕地に恵まれず，かつて多くの移民が生じた（華僑）。しかし，19世紀に入り，イギリス人の手によってホンコンの港が開かれ，さらに1980年代以降は経済特区を中心に工業化が進み，経済成長率は極めて高い。内陸部からの出稼ぎ労働者を多く迎え入れている。

（＊）スーチョワン盆地に位置するスーチョワン省とチョンチン市の人口の合計。

［４］ 中国には５つの自治区が設けられ，それぞれ少数民族により自治が行われている。

・内モンゴル自治区・・・モンゴル人による遊牧文化がみられ，移動式住居であるパオが利用されていた。チベット仏教（ラマ教）が主に信仰される。
・シンチヤンウイグル自治区・・・シルクロードに沿い，イスラームが伝えられた。内陸砂漠が広がり，ウイグル人はオアシス農業により小麦や綿花の栽培を行っている。近年は油田やガス田の開発も進み，パイプラインによって資源は沿海部へと送られている。
・ニンシヤホイ族自治区・・・アラブ系をルーツとするホイ（回）族を中心とする。黄河沿いで綿花の栽培など。
・チベット自治区・・・標高4000mの高原を中心とする。冷涼少雨の気候がみられ，チベット人によってヤクの遊牧が行われている。近年，鉄道が開通し，沿海部との交流も活発になった。区都ラサには，チベット仏教（ラマ教）の総本山であるポタラ宮がある。
・コワンシーチョワン族自治区・・・ベトナムに接する。温暖多雨の米作地域で，チョワン族は国内の少数民族として最も人口が多い。仏教（大乗仏教）が信仰されている。

［５］ 中央直轄市は４つ。首都ペキン，その外港都市テンチン，最大の商工業都市シャンハイ，スーチョワン盆地の東部を占めるチョンチン。

資源と結びつく都市としてとくに重要であるのは東北地方の中心に位置するター

チンであり，国内最大の油田が位置する。同じく東北地方の遼東半島の付け根に位置するアンシャンは国内最大の鉄山に近接し，鉄山立地型の鉄鋼業が栄えた。三大鉄鋼基地の一つ（他の２つはパオトウとウーハン）。ただし，近年は輸入した鉄鉱石と石炭への依存率が高まり，沿海部の鉄鋼生産が急増している。シャンハイ郊外のパオシャンなど。

1980年代の改革開放政策によって華南地域に５つの経済特区が設けられた。安価な労働力を求める外国からの工場が進出。アモイ（台湾に近接）やシェンチェン（ホンコンに近接）など。とくにシェンチェンの成長は著しく，その人口の多くはスーチョワン盆地からの出稼ぎ者で占められている。

［６］ 東南アジアは，環太平洋造山帯とアルプス･ヒマラヤ造山帯の境に位置し，複雑な地形が生まれている。タイランド（シャム）湾やマラッカ海峡など大陸棚の広がる浅い海域がある一方，フィリピン諸島の東岸とインドネシア・スマトラ島とジャワ島の南岸に沿って海溝が走行する。巨大地震の震源地となり，周辺に火山も多い。

インドシナ半島には長大な河川もあり，その代表がメコン川である。中国に水源を発し，ベトナム南部に河口を有する国際河川。

［７］ 東南アジア11か国について，主に信仰されている宗教を確認しよう。

・フィリピン・・・カトリック。スペイン植民地時代に宣教師が送られた。
・ベトナム・・・仏教（大乗仏教）。北伝仏教。日本と同じ。漢字文化を持っていた国である。
・タイ・ミャンマー・ラオス・カンボジア・・・仏教（上座部仏教）。男子は出家し，修行に励む。仏教は托鉢の習慣があり，温暖多雨な農業地帯に広まった。とくにインドシナ半島にはメコン川，チャオプラヤ川など大河川が多く，その沖積低地では米作が盛ん。
・シンガポール・・・中国系住民が多く儒教や道教の文化もあるが，キリスト教徒やムスリムも多く，多様。
・マレーシア・ブルネイ・インドネシア・・・イスラーム。香料交易のためアラブ商人が訪れ，イスラーム化されていった。イスラームは商人の宗教である。
・東ティモール・・・カトリック。ポルトガル植民地時代に広まった。

例外的な地域として，フィリピン南部のミンダナオ島（イスラーム）とインドネシアのバリ島（ヒンドゥー教）がある。

［8］ 東南アジアの旧宗主国を整理しよう。

・フィリピン・・・スペインからアメリカ合衆国。英語が公用語の一つである。

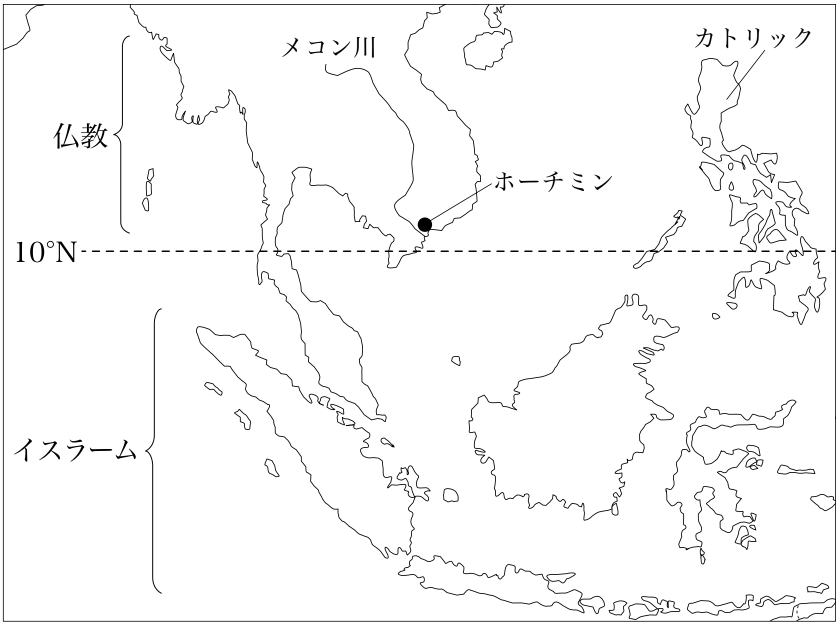
・ベトナム・ラオス・カンボジア・・・フランス。コーヒーを飲む文化が伝わった。

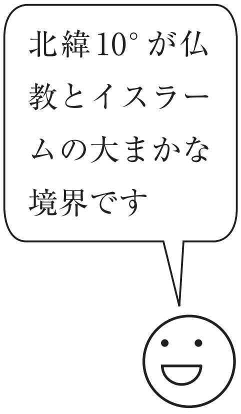
・タイ・・・独立を維持。インドシナ半島の中心部に位置し，フランス領とイギリス領との緩衝地帯となった。

・ミャンマー・マレーシア・シンガポール・ブルネイ・・・イギリス。植民地時代にマレー半島においてイギリス系の天然ゴムのプランテーションが多く開かれた。

・インドネシア・・・オランダ。アラブ人の後に香料貿易を支配したのは商業国家オランダである。なお，オランダは教育や言語の普及については熱心でなかったため，旧植民地ながらインドネシアではオランダ語は広まらなかった。公用語はインドネシア語のみ。

・東ティモール・・・ポルトガル。一時期インドネシアの支配下にあったが，2002年に独立。





［９］ 東南アジアの都市について整理しよう。人口1000万人を有する巨大都市は，マニラ大都市圏（フィリピン）とジャカルタ（インドネシア）。とくにジャカルタの位置するジャワ島は人口過密であり，周辺の島々への移住も進む。

・バンコク（タイ）・・・人口800万人に達し，タイの総人口の１割程度が集まるプライメートシティ。タイは国内の都市人口割合が50％程度に過ぎず，バンコク以外に人口が大きな都市は存在しない。
・ホーチミン・・・ベトナム南部。人口700万人を超える大都市で，広大なメコン川のデルタに位置する。近年は商業的な米作も行われている。首都は北部のハノイ。
・シンガポール・・・同国（人口約600万人）の首都。中継貿易で栄える。１人当たりGNIが高いため，第２次産業（製造業など）から第３次産業（商業・金融業など）への転換が進んだ。

［10］ 東南アジアの国々は，１人当たりGNIによって４つのランクに区分される。
高所得国；シンガポール（中継貿易港として発展）・ブルネイ（天然ガスの輸出）
工業国；マレーシア（先端産業の発達もみられる）・タイ（自動車工業が拡大）
新興国；インドネシア（石炭や原油，天然ガスの輸出）・フィリピン（出稼ぎを送り出す国であるが，近年工業化が進む）・ベトナム（社会主義国であるが市場経済化を進める）
後発発展途上国；カンボジア（かつて凄惨な内戦）・ミャンマー（近年再び軍事政権となった）
（注）ラオスは人口規模が小さいこともあり計算上は１人当たりGNIはベトナムより高くなっているが，内陸部に位置し外国からの企業進出も少ない。工業化は進んでいないと考えられる。

①「繊維工業」，②「工業化は停滞」，③「自動車工業」，④「知識集約型工業」というキーワードに注目しながら，それぞれの国の経済発展の状況を考えよう。

第１講
東アジア・東南アジア［練習問題］

［１］（2009年度地理Ａ追試験第４問問３）

次の**カ**～**ク**の文は，図**１**中のソウル，プサン，ポハンのいずれかの都市の特徴について述べたものである。**カ**～**ク**と都市名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

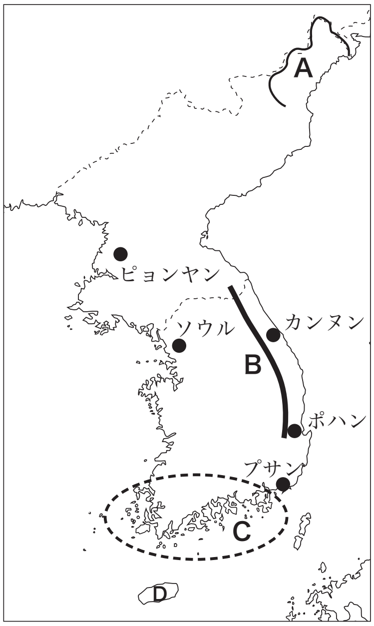


図　**1**

カ　国内における政治・経済・文化の中心地であり，外資系企業が多く進出している。

キ　1960年代後半以降，日本企業の協力による製鉄所も建設され，重工業都市へと発展した。

ク　国内第２位の人口をもつ都市であり，古くから日本との交通の要地となっている。

	カ	キ	ク
①	ソウル	プサン	ポハン
②	ソウル	ポハン	プサン
③	プサン	ソウル	ポハン
④	プサン	ポハン	ソウル
⑤	ポハン	ソウル	プサン
⑥	ポハン	プサン	ソウル

［２］（2005年度地理Ｂ本試験第３問問２）

次の図２中の①～④は，図１中の**ア**～**エ**のいずれかの地点とペキンとを結ぶ線に沿った地形断面を示している。地点**ウ**とペキンとの間の地形断面図として最も適当なものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。ただし，水平距離に対して垂直距離は約200倍で表現してある。

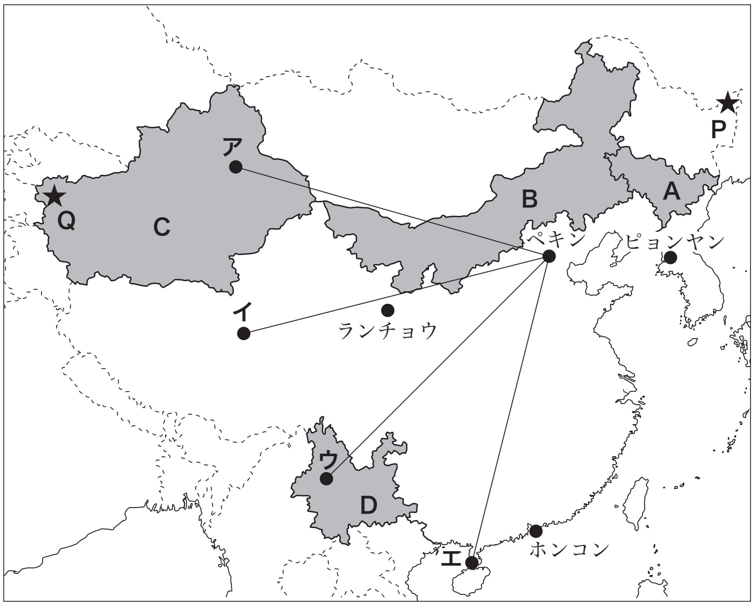


図 1

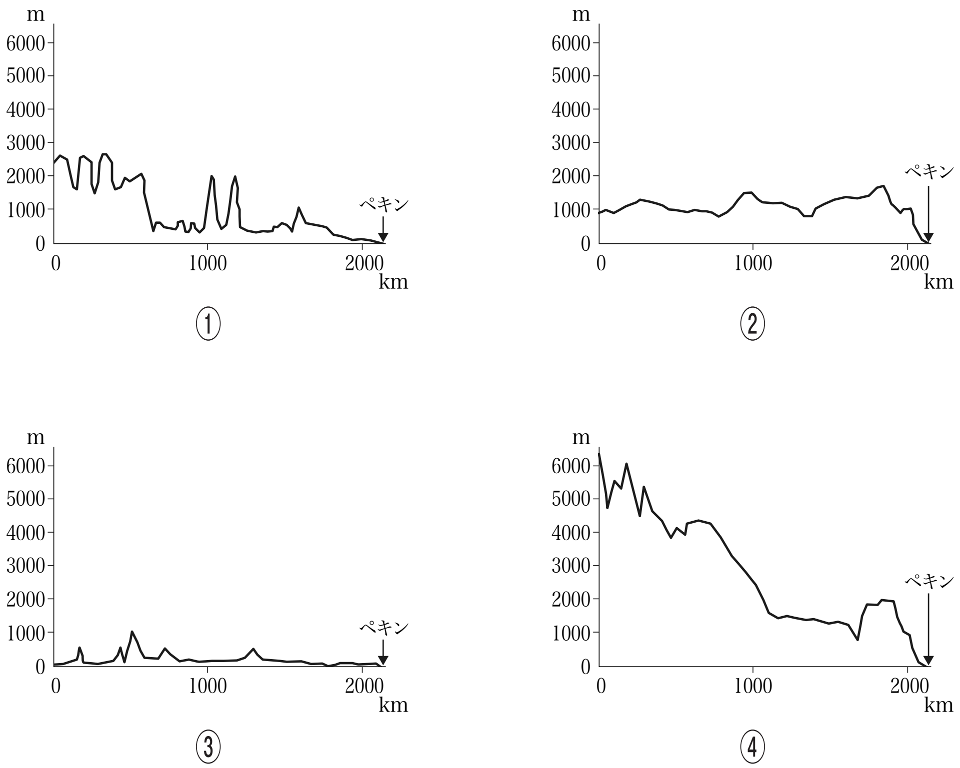


図　２

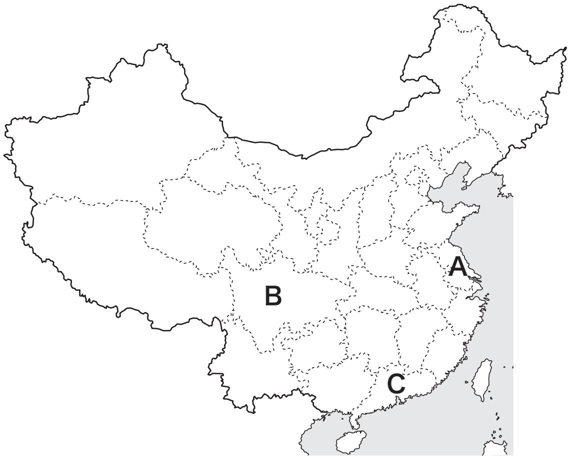
［３］（2000年度地理Ｂ追試験第３問問１）

次の文章**ア**～**ウ**は省別に1996年現在の中国国内の様子を述べたものである。下の図中の**Ａ**～**Ｃ**は**ア**～**ウ**に該当する省のいずれかの位置を示したものである。**ア**～**ウ**と**Ａ**～**Ｃ**の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

ア　中国の省の中で最大の人口を有する。米の生産量が全国で第２位の農業地域であるが，多数の農民が省外へ出稼ぎに出ている。

イ　かつては東南アジア各地に移住者や出稼ぎ者を送り出す貧しい地域であった。改革・開放政策で外国資本の導入が進み，経済が急速に発展した。

ウ　改革・開放政策で工業が著しく発展し，工業生産額は全国第１位である。長江に沿った湖沼の多い地域で，米や小麦の生産が多くみられる。



	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	A	A	B	B	C	C
イ	B	C	A	C	A	B
ウ	C	B	C	A	B	A

［４］（2015年度地理Ａ本試験第３問問４）

次の**カ**～**ク**の文は，図**１**中の**Ｋ**～**Ｍ**で示されたいずれかの自治区を主とする中国の少数民族について述べたものである。**Ｋ**～**Ｍ**と**カ**～**ク**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

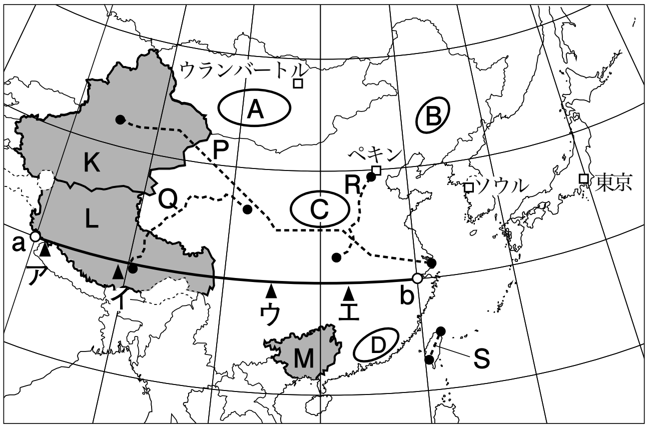


図　**1**

カ　中国の少数民族の中では最も人口が多く，生活には仏教や道教の影響がみられる。

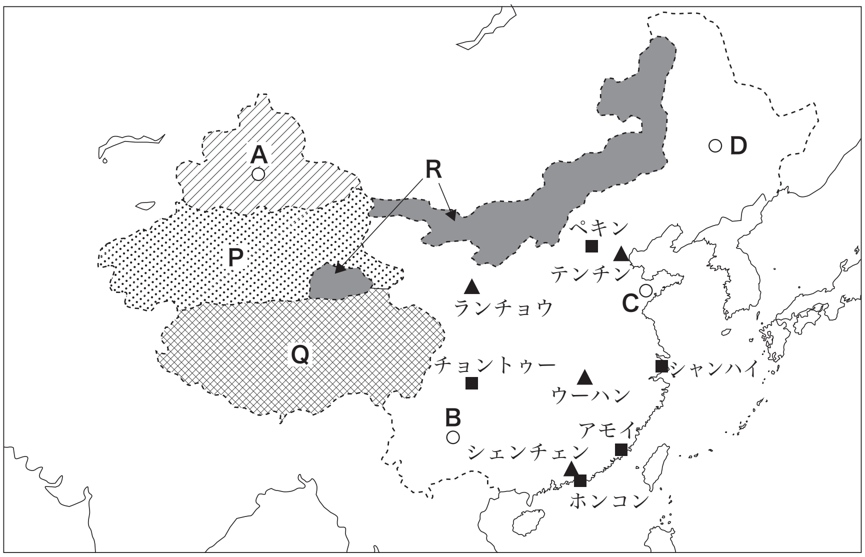
キ　羊やヤクの遊牧がみられ，独自の発展を遂げた仏教にもとづいて生活する人が多い。

ク　文字の表記にはアラビア文字をもとにした字体が主に使われているが，漢語を話す人も増えている。

	①	②	③	④	⑤	⑥
K	カ	カ	キ	キ	ク	ク
L	キ	ク	カ	ク	カ	キ
M	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［５］（2009年度地理Ａ本試験第４問問７）

次の①～④は，図１中に示した工業都市であるウーハン(武漢)，シェンチェン(深圳)，テンチン(天津)，ランチョウ(蘭州)のいずれかについて述べたものである。シェンチェンについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。



国境線は，設問にかかわる部分のみを記入した。「中華人民共和国地図集」などにより作成。

図　１

① 中央直轄市の一つで，豊富な鉱産資源を背景に鉄鋼業や機械工業などが発達している。

② 経済特区として最も早く指定された都市であり，外国企業が進出し，軽工業，電気・電子工業などが発達している。

③ 水陸交通の要地で商工業が発達するとともに，中国における三大鉄鋼コンビナートの一つが立地している。

④ 古くから交通の要地として栄えた都市であり，現在は石油精製工業を中心とした化学工業や機械工業が盛んである。

［６］（2010年度地理Ａ追試験第４問問１）

図１に示した地域における自然環境について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

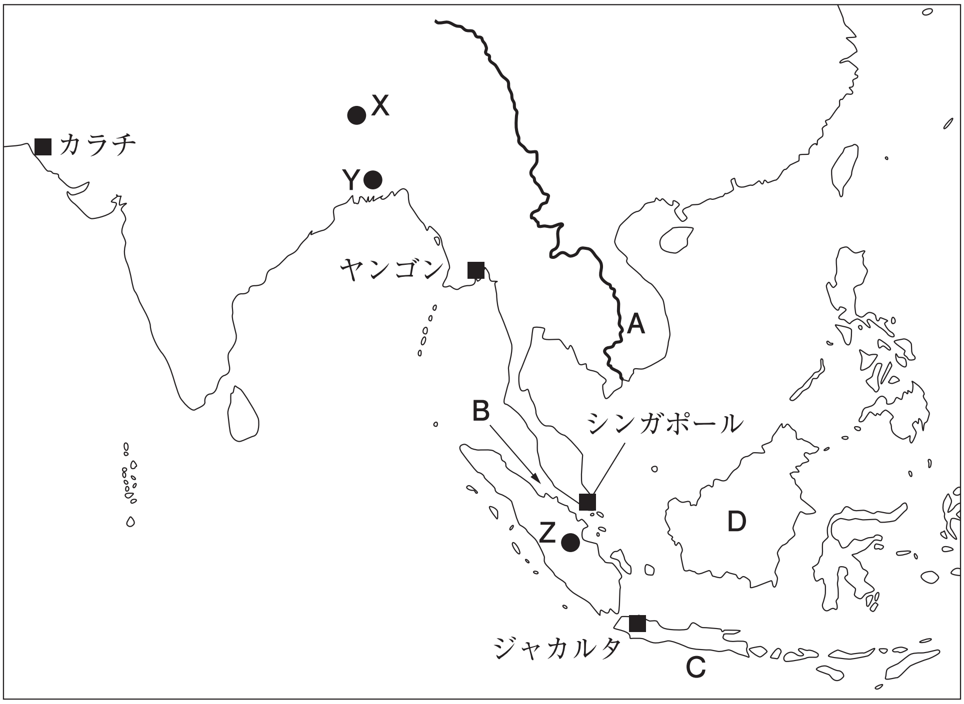


図　1

① Ａ川は，南シナ海にそそぐ国際河川であり，下流域には三角州（デルタ）が形成されている。

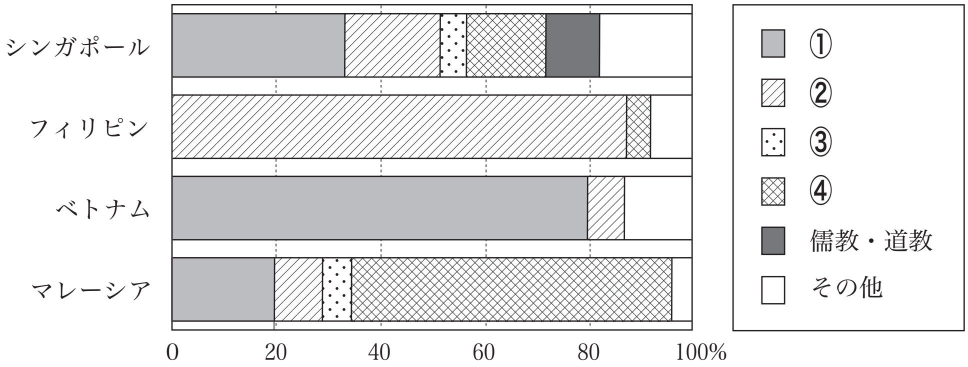
② Ｂ海峡は，海溝があるため水深が深く，大型船舶が通航し国際的に重要な航路となっている。

③ Ｃ島は，新期造山帯に属しているため，火山活動が活発である。

④ Ｄ島は，大半が熱帯雨林に覆（おお）われ，海岸部ではマングローブがみられる。

［７］（2014年度地理Ａ追試験第３問問５）

次の図３は，シンガポール，フィリピン，ベトナム，マレーシアにおける宗教別人口の割合を示したものであり，①～④はイスラーム(イスラム教)，キリスト教，ヒンドゥー教，仏教のいずれかである。イスラームに該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。



宗教別人口の割合が５％以下の場合にはその他に含めた。
統計年次は2010年。
ASEAN-JAPAN Centreの資料により作成。

図　３

［８］（2012年度地理Ｂ追試験第４問問４）

図１中のＰ～Ｓのいずれかの国における経済や文化について述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

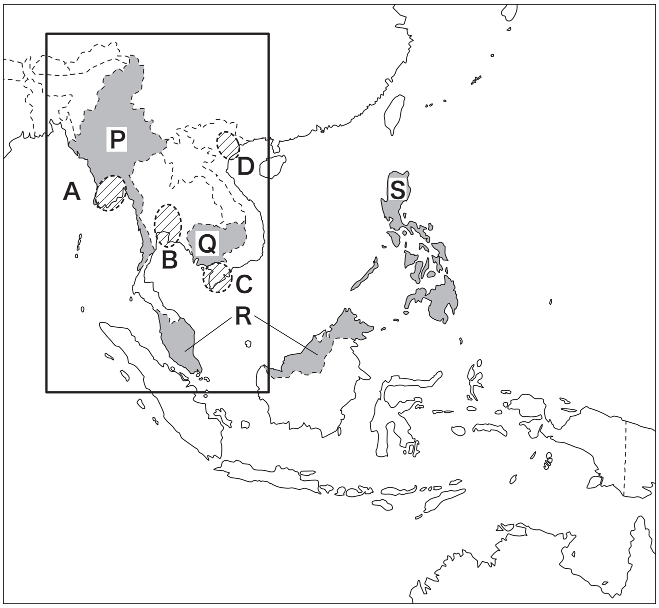


図　1

①　Ｐ国では，欧米諸国の植民地化を免れたために，ビルマ語や仏教信仰など独自の文化が維持されている。

②　Ｑ国では，長期にわたる内戦や政情不安から，多くの出稼ぎ労働者が経済発展を遂げる近隣の国々に流出している。

③　Ｒ国では，マレー系住民への優遇政策により，マレー系住民の社会・経済的地位が中国系やインド系の住民を凌(しの)ぐようになった。

④　Ｓ国では，公用語としてスペイン語と英語が使われており，植民地時代の影響を色濃く残している。

［９］（2005年度地理Ｂ追試験第４問問５）

国際化の進展は人々の移動を促進させている。次の**サ**～**ス**の文章は，シンガポール，バンコク，ホーチミンのいずれかにおける人々の移動などについて述べたものである。**サ**～**ス**と都市名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

サ　日本企業の進出も多く，ビジネス目的の旅行者も多い。街中いたるところに仏教寺院があり，多くの観光旅行者が訪れる。郊外には世界遺産に登録された古都がある。

シ　フランス統治時代の建築物が街の中心部に数多く残る。この国最大の都市で，経済政策の転換によって海外との交流が活発化し，日本人旅行者も増加している。

ス　早くから中継貿易の拠点として成長し，都心部には国際的な金融機関などが入居する高層ビルが建ち並んでいる。隣国からの通勤者もみられ，英語をはじめとする複数の言語が使用されている。

	サ	**シ**	**ス**
①	シンガポール	バンコク	ホーチミン
②	シンガポール	ホーチミン	バンコク
③	バンコク	シンガポール	ホーチミン
④	バンコク	ホーチミン	シンガポール
⑤	ホーチミン	シンガポール	バンコク
⑥	ホーチミン	バンコク	シンガポール

［10］（2010年度地理Ａ追試験第４問問５）

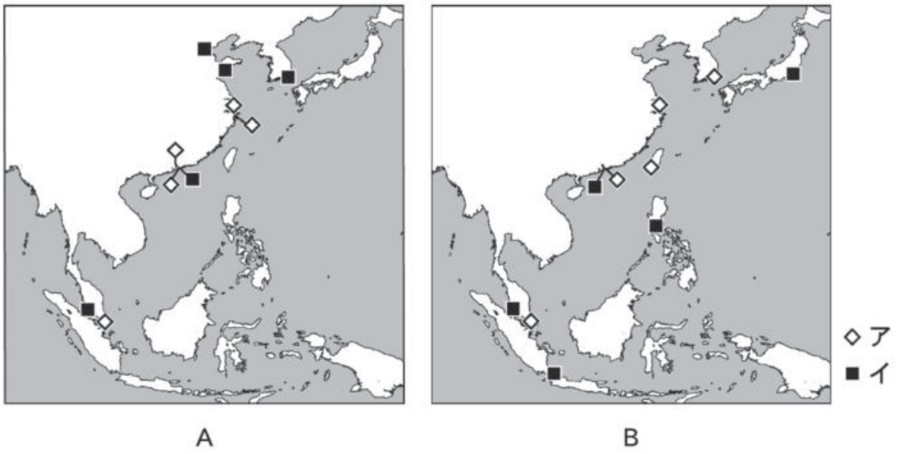
次の①～④の文は，シンガポール，タイ，ベトナム，ミャンマーのいずれかの国における経済発展について述べたものである。ベトナムについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

① 1980年代半ばから経済開放をすすめ，積極的に外国資本を受け入れたことにより，現在では機械工業や繊維工業が発達している。
② 経済発展をめざして1990年代後半にASEAN（東南アジア諸国連合）に加盟したが，民主化と経済開放が遅れているため，工業化は停滞している。
③ 日本企業の現地法人数が東南アジアで最も多く，電気機械工業や自動車工業が発達しているほか，農業資源をいかした食品加工業も盛んである。
④ 古くからの中継貿易の拠点であり，1960年代には大規模工業団地が建設されて工業化がすすんだが，現在は知識集約型工業が発達している。

第１講
東アジア・東南アジア［確認問題］

［１］（2021年度地理Ａ本試験第４問問１）

現代の世界は，様々な商品の物流によって互いに結びついている。次の図１は，いくつかの年のコンテナ貨物取扱量について，東・東南アジアにおける上位10位までの港の位置を示したものであり，ＡとＢは2000年と2018年のいずれかである。また，図１中の凡例アとイは，コンテナ貨物取扱量上位１～５位の港と，６～10位の港のいずれかである。2018年の図と上位１～５位の港との正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。



Review of Maritime Transport などにより作成。

図　1

	①	②	③	④
2018年の図	A	A	B	B
上位１～５位の港	ア	イ	ア	イ

［２］（2003年度地理Ａ本試験第２問問２）

次の文**カ**〜**ク**は，下の図**1**中の**A**〜**C**で示されたいずれかの自治区を主たる居住地とする中国の少数民族やその生活について述べたものである。**カ**〜**ク**と**A**〜**C**の組合せとして正しいものを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

カ　チベット仏教（ラマ教）に基づいて生活する人が多い。
キ　オアシス農業や放牧が農業の中心となっている。
ク　中国の少数民族の中では最大の人口をもつ。

図　**1**

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	A	A	B	B	C	C
キ	B	C	A	C	A	B
ク	C	B	C	A	B	A

［3］（2004年度地理Ｂ本試験第４問問２）

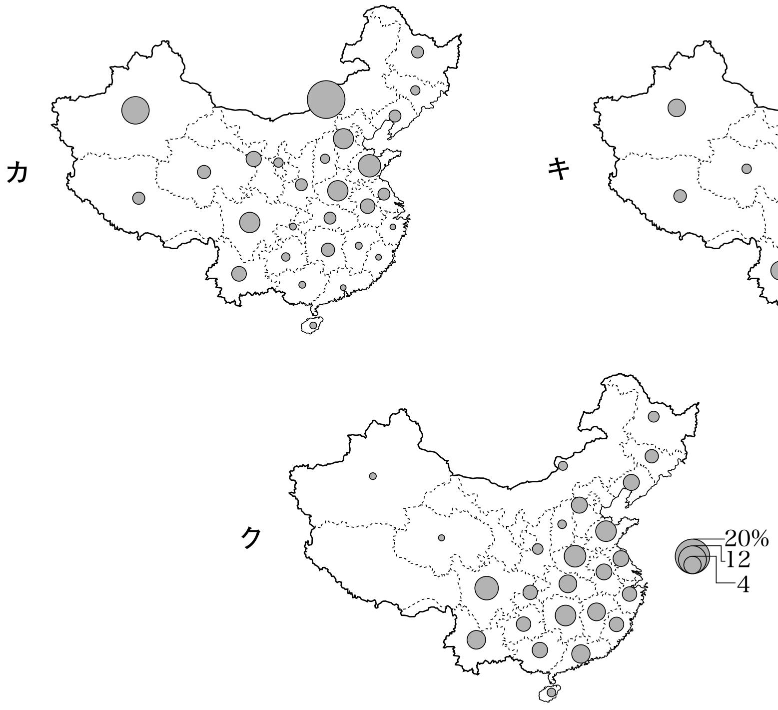
次の①～④の文は，中国の四つの都市，シェンチェン(深圳)，シャンハイ(上海)，テンチン(天津)，ホンコン(香港)のいずれかについて述べたものである。シェンチェンについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

① 経済技術開発区をもつ直轄市で，首都の外港として機能している。
② 中国の特別行政区で，国際的な金融センターとして機能している。
③ 中国最大の商工業都市で，外国資本を導入した開発が進展している。
④ 経済特区に指定され，工業化と市街地の拡大が急速に進んでいる。

［4］（2013年度地理Ｂ追試験第４問問２）

次の図**２**は，中国(＊)における主な肉類の生産量について，中国全体に対する省(直轄市･自治区を含む)ごとの割合を示したものであり，**カ**～**ク**は牛肉，羊肉，豚肉のいずれかである。**カ**～**ク**と品目名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(＊)台湾，ホンコン，マカオを含まない。



統計年次は 2009 年。『中国統計年鑑』により作成。

図　**2**

	①	②	③	④	⑤	⑥
牛肉	**カ**	**カ**	**キ**	**キ**	**ク**	**ク**
羊肉	**キ**	**ク**	**カ**	**ク**	**カ**	**キ**
豚肉	**ク**	**キ**	**ク**	**カ**	**キ**	**カ**

［５］（2009年度地理Ｂ追試験第３問問４）

次の①～④の文は，シンガポール，タイ，ブルネイ，マレーシアのいずれかの国の鉱工業について述べたものである。タイについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

① 中継貿易港の利点をいかし，早くから輸出指向型の工業化を進め，造船，石油化学，電気機械・電子などの工業が成長した。
② かつては世界最大のすず鉱の産出国であったが，現在では外国企業の進出によって，電気機械・電子工業が主要産業となっている。
③ １人当たりGDP（国内総生産）は高い水準にあるが，原油や天然ガスの産出が中心で，輸出に占める工業製品の割合は10％ほどである。
④ 食料品工業や繊維工業に加え，外国企業の進出によって，自動車工業をはじめとした機械工業の成長が著しい。

［6］（1997年度地理Ｂ本試験第２問問６）

次の表１は，シンガポールとマレーシアについて，それぞれの国の総人口と，主な民族別の人口構成を示したものである。両国がとっている民族・言語政策として適当なものを，下の文①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び，シンガポールについては(1)に，マレーシアについては(2)に答えよ。

表　1

国名	総人口(万人) 1993年	各民族の構成比(%)		
		中国系	マレー系	インド系
シンガポール	287	78	14	7
マレーシア	1,905	29	63	8

「Buku Tahunan Perangkaan」,「Yearbook of Statistics Singapore」による。

① 中国語のみを公用語とし，多数派である華人を優遇する政策をとっている。
② 中国語，マレー語，タミル語に加え，英語も公用語とすることによって，国家の統合をはかろうとしている。
③ 民族間の対立を避けるため，各民族の言語を用いず，英語とフランス語を公用語としている。
④ 多数派の言語であるマレー語のほかに，中国語，タミル語を公用語とすることによって，国家の統合をはかろうとしている。
⑤ マレー語を公用語とし，多数派であるにもかかわらず経済的には低い地位におかれているマレー人を優遇する政策をとっている。

〈Note〉

第１講
東アジア・東南アジア　解答

[１]正解；②

[２]正解；①

[３]正解；④

[４]正解；⑥

[５]正解；②

[６]正解；②

[７]正解；④

[８]正解；②

[９]正解；④

[10]正解；①

第１講
東アジア・東南アジア　解答

［**1**］正解；①

東アジア・東南アジア地域の港の規模に関する問題である。近年，急激に経済成長した中国に着目する。中国は改革開放政策によって1980年代以降大きな経済成長を果たした国であり，海上交通を含めた貿易額も大きく増加した。代表的な港湾都市としては，中部のシャンハイ，南部のホンコンなどがあり，図中でも示されている。

中国南部の沿岸部に注目すると，**A**では３つの港(**ア**が２，**イ**が１)が示されているのに対し，**B**では２つの港(**ア**が１，**イ**が１)が確認できる。まず，**B**の２つは南部の代表的な港であるホンコンとシェンチェンだと考えられる。**A**ではその近くにもう一つの港が加わっているが，これは２つの港湾都市を中心とした中国南部地域の海上交通における重要性が高まり，近隣の港の規模も大きくなったと解釈するのが適当である。また，中国全体でみても，１～10位の港のうち，**B**では中国に３つ，**A**では７つとなっている。これは，中国の港の規模が大きくなり，東アジア地域の海上交通の中心として成長していることによるものと想像できる。よって，2018年の図に該当するのは**A**である。

次に，**ア**と**イ**を判定する。**B**から**A**への変化に注目すると，**B**に存在していた日本，フィリピン，インドネシアの**イ**が，**A**では消えている。2000年の段階で上位５位までにランクインしていた港が，18年後には３つも11位以下にランクが下がってしまうということは考えづらい。台湾の**ア**のみ**B**から**A**に移行する過程で消えているが，より可能性が高いものとして，**イ**を６～10位の港と判断する。

以上のように考え，矛盾がないか検討していく。まず，**B**から**A**までの間に日本国内からは上位10位までの港がなくなり，韓国南部の港もランクを下げている。一方で，中国北部では２つの港が６～10位に，中部では一つの港が１～５位に新しく加わっている。さらに南部でも，すでに述べたように，シェンチェンとホンコンに加えてもう一つ巨大な港湾が加わっている。2018年には上位１～５位までの港のうち４つが中国に集中し，東アジア経済の中枢を担っていることがよくわかる。中国の台頭によって東アジア地域における日本の経済的な地位が低下したことが如実に現れており，中国の急激な経済成長を物語っている。

東南アジアに目を移すと，シンガポールとマレーシアの港に変化はなく，とく

にシンガポールは依然として上位１～５位の地位を保っている。国際分業が進み，各国間の関係がさらに緊密になる中で，シンガポールがその中心として大きな存在感を放っていることがうかがえる。

よって，2018年の図が**A**，上位１～５位の港が**ア**であり，正解は①。

［２］正解；③

Aはシンチヤンウイグル自治区。シルクロードに沿う乾燥地域でイスラームが伝えられた。伝統的な灌漑農業であるオアシス農業によって穀物や綿花が栽培されるほか，羊の放牧もみられる。**キ**が該当。

Bはチベット自治区。標高が極めて高い冷涼少雨の高原を中心とし，ヤクの遊牧がみられる。チベット仏教が信仰され，**カ**が該当。

Cはコワンシーチョワン族自治区。温暖多雨で米作が盛ん。高い人口支持力によって，農業を基礎とする仏教が広まっている。**ク**が該当。

［３］正解；④

シェンチェンはコワントン省の都市。ホンコンに隣接し，経済特区に指定されている。外資系の企業が多く進出し，出稼ぎ者の流入によって人口も急増した。

①はテンチン。直轄市の一つで，ペキンの外港都市である。綿工業などが盛ん。

②はホンコン。イギリスの植民地として発展し，1990年代に中国へと返還された。返還後も資本主義の経済体制は維持されており，１人当たりGNIは高い。金融業が発達する。

③はシャンハイ。人口規模はペキンを凌ぎ，港湾都市として商工業が発展する。輸出加工区が設けられ，外国企業の進出数も多い。

［４］正解；③

北西部のシンチヤンウイグル自治区に注目。イスラーム地域であり豚の飼育はみられず，乾燥地域なので主に羊が飼育されている。ここで値の大きい**カ**が羊，小さい**ク**が豚となる。羊はこれ以外に内モンゴル自治区でも多く，やはり少雨である。豚は華北やスーチョワン省で多く，これらの地域は豊かな農業地域であるため，飼料作物の栽培も盛ん。

［５］正解；④

①；「中継貿易」よりシンガポールである。東南アジアで最も早く工業化を成し

遂げた国でもある。ただし，高賃金と労働力の少なさにより，繊維や自動車など労働集約型工業は発達せず，石油化学工業のような資本集約型工業や，電子など知識集約型工業が中心である。

②；この国も工業は発達しているが，①のシンガポールに比べると「電気機械」などが「主要産業」であるなど，労働集約型の特徴がある。マレーシアに該当。１人当たりGNIは約10000ドル／人であり，機械工業も成り立つ。ただし，近年は首都クアラルンプール近郊のサイバージャヤにハイテク産業地域が形成されるなど，先端産業の分野においても飛躍が目覚ましい。

③；「天然ガス」が主要な輸出品目であり，ブルネイに該当。資源産出に依存する小国であり，１人当たりGNIが高い。

④；工業国ではあるが，その中心の一つに繊維工業があるなど，経済レベルが①のシンガポールや②のマレーシアより低いことがわかる。１人当たりGNIが約7000ドル／人であるタイに該当。なお，タイは自動車部品などについて日本と自由貿易を行っており，バンコク近郊には日系の自動車工場が多く設けられている。ここで組み立てられた自動車が西アジアの産油国などに輸出されている。

［６］正解；⑴② ⑵⑤

⑴シンガポールはもともとマレーシアの一部だったことからマレー語が，さらに旧宗主国の言語である英語に加え，移民系の言語である中国語とタミル語（インド南部の言語）も，公用語とされている（公的な場においては一般に英語が使用される）。

⑵マレーシアではブミプトラ政策が施行されるなど，先住のマレー系住民の権利が強く尊重されており，公用語もマレー語のみである。宗教もイスラームが国教とされ，国旗にもイスラームを象徴する月と星のマークが描かれている。

なお，表中の数値については現在とは異なっているので注意してほしい。参考までに最新のデータを示しておく。

国名	総人口(万人) 2021年	各民族の構成比(%)		
		中国系	マレー系	インド系
シンガポール	594	74	13	9
マレーシア	3,357	23	62	7

『データブック　オブ・ザ・ワールド2024』(二宮書店)により作成。

各民族の構成比の統計年次は，シンガポールが2010年，マレーシアが2009年。